

2023年度 エール幕張海浜 事業報告

1. 園の概要

(1)基本情報

- ①名 称：こども発達支援事業所 エール幕張海浜
- ②住 所：千葉県美浜区幕張西2-7-2 幕張海浜こども園内
 電話番号：043-304-5700
 FAX番号：043-273-2267
 ホームページアドレス：<https://www.ainosono.or.jp/makuhari/kids/>

(2)実績報告 (2023年度)

2023年度 利用数および利用状況一覧

月	契約数				利用率			収入 (給付費)
	在園児童	外部児童	計	契約率	在園児童	外部児童	計	
4			0				0	
5			0				0	
6			0				0	
7	8	0	8	42	36.5	0	36.5	868,565
8	9	0	9	47	38.1	0	38.1	1,004,245
9	9	0	9	50	42.5	0	42.5	1,016,715
10	9	0	9	53	40	0	40	1,005,369
11	9	0	9	54	39	0	39	932,186
12	11	0	11	56	39	0	39	937,821
1	12	0	12	78	61.5	0	61.5	1,381,367
2	12	0	12	78	64.7	0	64.7	1,678,257
3	13	0	13	86.5	78	0	78	1,839,897

平均 契約率	60.5	%
-----------	------	---

平均 利用率	48.8	%
-----------	------	---

総収入	10,664,422
-----	------------

(3)在籍児童の状況および週間利用率、利用回数（2024年3月時点）

○在籍児童の状況

学年	人数
1歳児	1
2歳児	1
3歳児	4
4歳児	5
5歳児	2
計	13

○週利用率

曜日	人数
月	10
火	8
水	9
木	9
金	9

○利用回数

回数	人数
週1回	2
週2回	4
週3回	3
週4回	1
週5回	4

(4)職員の概要（2024年3月末）

管理者兼児童発達支援管理責任者 1名

保育士 3名（常勤2名、非常勤短時間1名）＊常勤換算2.5／4名

2.事業の概要

2023年4月の事業開始を予定していましたが、児童発達管理責任者の登録手続きが整わず、同年7月に8名の利用契約で開設となりました。利用者契約の目標を10月に8割とした後、年度末にかけて9割以上とする事とし、こども園在籍家庭への療育相談の広報活動や地域相談支援事業所、保健福祉センター等に出向き働きかけを行いました。また、こども園主幹保育教諭を中心に保育担当職員から療育を必要とする児童保護者に対し、面談を重ねていただいた事で年度末には8割を超える契約とすることができました。

外部児童の契約はありませんでしたが、こども園内併設事業所であることの意義と利点を広く広報したことにより、利用開始時に合わせてこども園入園を希望される方が多く、1号認定で入園されてからの利用となったため外部契約数が0名となっています。尚、外部希望者の多くは送迎を希望している事と保護者のレスパイト時間を長く望んでいることが挙げられます。今後はニーズに応じた検討を進めて参ります。

2023年度は計画通りに利用定員を満たせなかった事により、職員新規採用を行うことができず、職員配置加算（収入）にも影響を及ぼしました。また、週5日契約児童が長期欠席した場合に空いた支援枠を埋めることができず、結果として給付算定に影響が出たことも今後の課題として考慮する点と考えます。

○療育の取り組み姿勢

エール幕張海浜では、「本人支援」について、児童発達支援5領域を意識しながら、こども園とも連携を図り支援を行っています。

【健康・生活】

健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出せるように支援を行いました。具体的には、子どもの生活リズムを大切にしながら排泄や食事など、生活に必要なスキルを身に付けることを意識しています。

【運動・感覚】

感覚に特製のあるこどもが多く、身体の使い方や感覚の活用について支援が必要なため、姿勢の保持や力加減を学べるよう環境調整等を行っています。

感覚は外から見て分かりにくく、特性のあるこどもが辛い思いをしないように、感覚の過敏さや鈍麻に対する環境整備を行いました。

【認知・行動】

生活の中にある多くの情報から必要な情報を集め理解する事の難しさに対し、簡単な情報を集め理解する「スモールステップ」の支援を行いました。情報を得やすいように資格的要素（絵図、タイムタイマーなど）を多く取り入れ理解を促進しました。

【言語・コミュニケーション】

言語に限らない多様なコミュニケーション手段を活用して、意志伝達ができるようにそれぞれのこどもに合わせた支援を行いました。自分の気持ちを伝える手段、方法を知った事で、不適切行動といわれる他害や自傷・物を投げるなどの行動が減り、良い行動を増やすことにつながったと考えます。

【人間関係・社会性】

上記4点の土台が出来上がることは、人間関係や社会性が広がり今後の育ち方に大きく影響します。生活や活動において、「何しなければならぬか」「必要とするか」を明確にすることで集団活動に適応しやすくなるため、しっかりとした準備と安心できる環境設定を意識しました。

このような、5つの支援を個別支援計画に盛り込み、在籍クラスや保護者との連携を大切に支援提供を行ってきました。

また、保護者支援の1つとして、連絡帳を活用し1日の様子を写真と文章で伝えることも継続しました。その他、地域支援の一環として、子育てサークル「ひよこの会」（幕張西地区/月1回開催）への出張相談会を行い地域家庭の発達不安に寄り添いました。

3. 財務の概要

(1)決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
流動資産	5,504,731				
固定資産	272,135				
資産の部合計	5,776,866				
流動負債	7,877,189				
固定負債	182,750				
負債の部合計	8,059,939				
基本金	0				
国庫補助金等特別積立金	0				
その他の積立金	0				
次期繰越活動増減差額	△2,283,073				
純資産の部合計	△2,283,073				
負債及び純資産の部合計	5,776,866				

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

勘定科目		2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
事業活動による収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	10,377,249			
		借入金利息補助金収入	0			
		経常経費寄付金収益	0			
		受取利息配当金収入	15			
		その他の収入	175,200			
		事業活動収入計	10,552,464			
	支出	人件費支出	10,645,404			
		事業費支出	1,305,815			
		事務費支出	567,372			
		支払利息支出	0			
		その他の支出	163,200			
		事業活動支出計	12,681,791			
	事業活動資金収支差額		△2,129,327			

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

勘定科目		2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0			
		設備資金借入金収入	0			
		施設整備等収入計	0			
	支出	設備資金借入金元金償還金支出	0			
		固定資産取得支出	109,450			
		施設整備等支出計	109,450			
施設整備等資金収支差額		△109,450				
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	0			
		拠点区分間繰入金収入	0			
		その他の活動収入計	0			
	支出	積立資産支出	117,500			
		拠点区分間繰入金支出	16,181			
		その他の活動支出計	133,681			
	その他の活動資金収支差額		△133,631			
当期資金収支差額合計		△2,372,458				
前期末支払資金残高		0				
当期末支払資金残高		△2,372,458				

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

勘定科目		2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
サービス活動増減	収益	障害福祉サービス等事業収益	10,377,249			
		経常経費寄附金収益	0			
		その他の収益	0			
		サービス活動収益計	10,377,249			
	費用	人件費	10,762,904			
事業費		1,305,815				

の部		事務費	567,372				
		減価償却費	20,065				
		国庫補助金等特別積立 金取崩額	0				
		サービス活動費用計	12,656,156				
	サービス活動増減差額		△2,278,907				
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	0				
		受取利息配当金収益	15				
		その他のサービス活動外収益	175,200				
		サービス活動外収益計	175,215				
	費用	支払利息	0				
		その他のサービス活動外費用	163,200				
		サービス活動外費用計	163,200				
サービス活動外増減差額		12,015					
経常増減差額		△2,266,892					
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	0				
		施設整備等寄附金収益	0				
		長期運営資金借入金元 金償還寄附金収益	0				
		固定資産受贈額	0				
		固定資産売却益	0				
		拠点区分間繰入金収益	0				
		拠点区分間固定資産移 管収益	0				
		その他の特別収益	0				
		特別収益計	0				
	費用	基本金組入額	0				
		資産評価損	0				
		固定資産売却損・処分 損	0				
		国庫補助金等特別積立 金取崩額（除却等）	0				
		国庫補助金等特別積立 金積立額	0				
		災害損失	0				
		拠点区分間繰入金費用	16,181				
		拠点区分間固定資産移 管費用	0				
		その他の特別損失	0				
	特別費用計	16,181					
特別増減差額		△16,181					
当期活動増減差額		△2,283,073					
繰越活動増	前期繰越活動増減差額	0					
	当期末繰越活動増減差額	△2,283,073					
	基本金取崩額	0					
	その他の積立金取崩額						

減 差 額 の 部	その他の積立金積立額					
	次期繰越活動増減差額	△2,283,073				

④財務比率の経年比較

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
経常増減差額率	-21.84%				
流動比率	69.9%				
純資産比率	-39.52%				
固定長期適合率	-12.96%				
借入金償還余裕率	0				
事業活動資産収支差額	20.17%				
人件費比率	103.7%				
事業費比率	12.6%				
事務費比率	5.5%				

(2)その他

①借入金の状況

借入金なし

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対策方策

①収益性

人件費率が大幅に高いため、安定的・継続な収益性の指標となる経常増減差額率がマイナスとなった。利用者実績数が目標値に達しない月が続いたことが要因であるため、利用者確保に向けた高い計画性を必要とする。

②短期安定性

流動比率は短期的な支払い能力を判定するうえで200%以上が望ましく、値が100%を下回っている為、短期支払い義務に対する支払能力が不足している。

③長期持続性

借入金はなく、こども園と併設であり土地・建物の取得に資金を必要としない為、長期持続性は高い。

④資金繰り

借入金もなく、事業活動資金収支差額率がプラスである為、将来に向けた資金準備は心配がないが、数値がマイナスにならないように注意したい。

⑤合理性

人件費比率は中央値（69.1%）に対し103%と大幅に上回った。10月の目標利用率8割を目指したが、結果として児童の利用実績が平均58.1%（9ヶ月間）と低かったことで収入が減少し経費を賄えなかったことが挙げられる。徐々にこども園との連携が進んだことで、1月以降は3歳未満時の契約も増え、利用者数の増加とすることができたため3月に8割の利用率をとした。

次年度以降は、人件費率や借入れ返済（開設時初期費用分：6,518,158円（幕張海浜こども園借入））を踏まえ、年間実績利用率8割以上を維持する必要がある。